

2009.06.20 - 2009.06.26

武漢での皆既日食

国家天文台の論証によると、「7月22日に皆既日食が起こり、武漢での観測時間は5分24秒で、国内省級都市の中で最も長い。」とのことで、当日、武漢は突然5分間暗くなる。

昨日、市政府関係の責任者は記者会見で「政府は対応策を立て、7月22日当日もメディアを通じて市民に警戒するよう呼びかける」と発表した。

関係者の説明によると、月の東側から太陽の側面と重なりはじめ、引き続き月は東へと運行する。月に遮られた太陽の側面が徐々に拡大するにつれて、太陽光の強さと熱が著しく弱まり、空は暗くなる。昼間にもかかわらず急に暗くなるので、時間と空間の交錯が感じられ、幻覚が生じる。この突然の「暗闇」の5分間、都市生活に大きな問題を起こす可能性がある。

今年の皆既日食は午前9時23分頃から生じ、これはちょうど通学と通勤時間にあたる。運転手は集中力が低下し、高所での作業や病院での手術、建築工事、教育、商業活動及び社会の治安に影響が出る恐れがある。

「日食による天体引力や光度などの変化は通信、ネットワークに影響を及ぼし、携帯電話使用時、短時間の通信障害が発生し、ひどい場合は、中断する可能性も高い」と、天文専門家から注意を促した。



天文観測までの 25 日間のカウントダウン

今日から 7 月 22 日の皆既日食まで後 25 日。武漢市科技協会からの情報によると、いろいろな天文に関する行事を用意している。

- 科学普及専用車が 13 の区域に入る。今日より青山公園みどり広場、漢陽区機構内、江漢区桃源住宅団地、香江住宅団地、江岸新村街などの 13 都市地区の 22 ヶ所の住宅団地と小、中学校に入り、科学普及のための講座、天文望遠鏡観測、天文資料配布などの活動を行う。
- 青少年のための天文キャンプ。7 月 7 日、農民工の子供の天文愛好者のために、武漢市科学技術館で 4D 映画と天文映画を用意している。
- 国家天文台専門家による学校講演。7 月 9 日 - 21 日、武漢市科技館ホールと市内小、中学校で 7 つの講演会が行われる。国家天文台林元章研究員、フランス科学研究センター主任、フランス宇宙飛行局の専門家らが市民に「皆既日食の紹介」、「宇宙探測ロケットで火星を探る」などの講演を行う。
- 天文愛好者の育成。7 月 19 - 24 日、日食発生の原因、原理、観測ポイントなどについての知識を深めてもらう。